

山 菜 の 栽 培 化 技 術

第2報 オオバギボウシの促成栽培技術

金 森 靖・新 毛 晴 夫*

(岩手県園芸試験場高冷地開発センター・*久慈農業改良普及所)

Domestication of Wild Vegetables

2. Forcing culture of "*Hosta Sieboldiana* Engl."

Yasushi KANAMORI and Haruo SHINKE*

(Highland Cool-zone Development Center, Iwate Horticultural
Experiment Station・*Kuji Agricultural Extension Service Station)

1 は じ め に

オオバギボウシは岩手県内において食味が珍重され、栽培化もされている山菜の一つである。

第1報においてオオバギボウシの種子による大量増殖法について報告した。第2報では、促成栽培における休眠打破条件及び促成方法について検討した結果を報告する。

2 試 験 方 法

(1) 試験場所

岩手県園芸試験場高冷地開発センター (標高430m)

(2) 試験年次及び供試系統 (株養成年数)

1990年 山どり自主系 (株分け2年養成株),
一戸在来栽培系 (株分け2年養成株)
1991年 山どり自主系 (株分け3年養成株),
一戸在来栽培系 (株分け3年養成株)

(3) 試験区の構成 (表1, 2)

表1 伏込み時期の検討

促成開始時期 (年.月.日)	5℃以下* 遭遇時間
1990.11.1	111
1990.11.15	197
1990.12.1	400
1990.12.15	588
1991.11.1	82
1991.11.18	374
1991.12.3	607
1991.12.18	944

注. *: 掘取り前の気温から積算

表2 休眠打破条件の検討

No.	区 名	低温処理日数
1	低温* - 0	0
2	低温 -15	15
3	低温 -30	30
4	低温 -45	45
5	低温 -60	60

注. *: 1℃冷蔵

(4) 促成方法

1) 伏込み場所 二重被覆ハウス内電熱温床 (トンネル被覆), 覆土深5cm

2) 伏込み温度 地温 15℃ (1991年, 山どり自主系株分け3年養成株区のみ, 地温10℃及び15℃で伏込みを実施)

3 試験結果及び考察

(1) 伏込み時期の検討

山どり自主系では5℃以下の低温遭遇時間が588時間以上では出芽数が増加し、抽台及び縮葉などの異常芽の割合が低くなり、更に収穫物の重量が重くなる傾向がみられた。

一戸在来栽培系では5℃以下の低温遭遇時間が400時間以上で山どり自主系と同様の傾向を示したが、特に出芽数の増加が顕著であった (表3)。

(2) 休眠打破条件の検討

山どり自主系, 一戸在来栽培系とも低温処理により出芽数が多くなった。低温処理期間が長いほど出芽が早まり、収穫までの期間も短くなった。

山どり自主系では掘取りが遅く、低温処理日数が長いほど異常芽の割合が減少した。

一戸在来栽培系は低温処理時間が長くなっててもほぼ一定の茎葉重が得られたが、山どり自主系は低温処理期間が長くなるほど茎葉重が減少する傾向であった (表4)。

伏込み床の地温10℃区は15℃に比べて異常芽率が低かったが、出芽は15℃が早い傾向であった (表5)。

以上より、促成用根株の掘取り適期は、5℃以下の低温遭遇時間が400~600時間以上となる時期以降と考えられた。また、根株を低温処理することにより、促成時の出芽数が増加し、出芽までの期間も短縮され、更に、縮葉や抽台等の異常芽が減少することが明らかとなった。

4 ま と め

岩手県北部高冷地 (標高430m) において、12月上~中旬に根株を掘取り、低温処理を組合せることにより、オオバギボウシの促成作型が可能となる。

表3 低温遭遇時間と促成時の生育

5℃以下 遭遇時間	促成開始時期 (年.月.日)	株当り 出芽数	異常* 芽率	伏込み後日数		葉長 (cm)	葉数 (枚)	茎葉重 (g)
				出芽始	収穫期間			
山どり	82 1991.11. 1	0.0	—	—	—	—	—	—
111 1990.11. 1	0.5	100	43	—	—	(41.0)	(4.1)	—
197 1990.11.15	2.3	71	35	79~134	44.9	5.0	93.1	
374 1991.11.18	0.3	100	37	80	60.5	2.0	42.0	
400 1990.12. 1	2.0	25	32	70~109	50.8	2.9	44.0	
588 1990.12.15	11.0	5	34	61~ 98	53.7	4.4	76.7	
607 1991.12. 3	3.3	20	44	79~ 97	66.4	6.1	141.9	
944 1991.12.18	8.0	13	47	81~ 95	50.0	5.6	110.0	
一戸在来栽培系	82 1991.11. 1	0.0	—	—	—	—	—	—
111 1990.11. 1	0.0	—	—	—	—	—	—	—
197 1990.11.15	0.3	100	27	—	(23.3)	(4.0)	—	—
374 1991.11.18	0.3	100	46	101	33.7	4.7	25.0	
400 1990.12. 1	8.7	0	27	63~ 69	49.4	3.2	32.5	
588 1990.12.15	10.0	0	27	52~ 65	47.1	4.6	30.6	
607 1991.12. 3	13.0	15	35	79~ 93	60.0	3.5	56.0	
944 1991.12.18	21.0	2	36	79~ 92	61.1	3.6	55.0	

注. *異常芽：抽台及び縮葉などの異常がみられた芽, ** ()は異常芽の生育

表4 低温処理期間と促成時の生育 (1990年 地温15℃)

掘取り 月.日	No.	区 名	株当り 出芽数 (本)	異 常 芽 率 (%)	伏込み後日数		葉 長 (cm)	茎葉重 (g)
					出芽始 (日)	収穫期間 (日)		
山どり	11月 1	低温-0	2.3	71	35	73~134	44.9	93.1
	2	低温-15	3.5	43	36	66~109	50.0	109.8
	3	低温-30	14.5	10	25	60~ 79	54.6	89.3
	15日 4	低温-45	20.5	5	24	51~ 60	54.8	86.3
自生系	12月 1	低温-0	2.0	25	32	70~109	50.8	44.0
	2	低温-15	21.5	12	27	52~ 88	57.4	103.8
	3	低温-30	24.0	4	22	53~ 74	55.2	87.7
	4	低温-45	21.0	3	22	45~ 57	59.9	61.4
一戸在来栽培系	11月 1	低温-0	0.3	100	27	—	(23.3)	—
	2	低温-15	11.0	0	28	66~ 70	50.5	33.7
	3	低温-30	16.3	0	26	60~ 63	47.6	31.1
	4	低温-45	14.3	0	22	54~ 57	47.2	40.2
15日 5	5	低温-60	18.3	0	16	45~ 47	45.5	36.9
	12月 1	低温-0	8.7	0	27	63~ 69	49.4	32.5
	2	低温-15	16.0	0	28	52~ 65	50.7	36.7
	3	低温-30	16.7	0	21	52~ 57	48.5	30.8
1日 4	4	低温-45	22.7	0	16	48~ 51	43.2	31.3
	5	低温-60	18.3	0	18	46~ 48	44.9	32.5
	12月 1	低温-0	10.0	0	27	52~ 65	47.1	30.6
	2	低温-15	18.0	0	23	59~ 62	42.4	32.1
15日 3	3	低温-30	18.0	0	22	45~ 48	43.3	30.3
	4	低温-45	17.0	0	18	43~ 46	43.2	31.1
	5	低温-60	16.0	0	17	41~ 42	41.5	33.8

注. *異常芽：抽台及び縮葉などの異常がみられた芽, ** ()は異常芽の生育

表5 伏込み床の地温と促成時の生育 (1991年)

伏込み 床地温	株当り 出芽数 (本)	異常 芽率 (%)	伏込み後日数		葉長 (cm)	茎葉重 (g)
			出芽始 (日)	収穫期間 (日)		
15℃	8.7	8	25	56	57.5	77.7
10℃	9.0	0	30	56	46.4	52.4

注. 供試株：山どり自生系株分け3年養成株，12月3日掘取り1℃60日間低温処理